



最終

うつ病  
「ドロンパッ」  
読本

物書き  
うときゆう いっき



2023/8/5

最終 うつ病「ドロンパッ」読本

## 「身内ゆえ」



「柔道の主将を3年間勤めながら当時最難関の東大の法科に難なく現役で入った位だから頭は超絶イイ。

その時代、会社で上まで上り詰めたなら総務部の長と言われた総務部。その総務畑で出世する条件の最右翼だったのが法科。処がその総務部の意地悪な上司が出来のいい親父に今後抜かれる事を恐れ、その芽を摘み取るべく、此処へ飛ばせば失敗するだろうという、法科出身の親父には全く畑違いの製品事業部の長として飛ばされた。しかし豈図らんや、飛ばされた先の万年赤字事業部を超短期間で一気に大幅黒字事業部に転換させ、その功績が認められてエクセレントカンパニーの役員になった事から見ても手腕の方も並大抵ではなかったんだと思う。

処がそんな人間にありがちな自分本位な身勝手さはなく、外地で敗戦を迎え、捕虜になった時も部下が全員復員するのを見届けるまで現地に残った。自分が復員したのは終戦から二年後だ。そうまでして復員させた部下が、帰国後勤めた会社の上司にいじめられて自殺した折「あの弾の下を命辛々生き残って来た奴を、平時にしかも国内で死に追いやるような真似を止める事が出来なかった」といつまでも悔しがるような男気も持ち合わせていた。

そういうのが身内に居てその身近な人間から「お前はバカか？」と何度も謂われ、其れに負けまいと論理を入念に組立て、舌鋒鋭く迫ったが「それは机上の空論だ。口先だけの世界の話だ。お前の言っている事には重みが丸でない。ペラッペラの、ペラだ!!」と言われた時のショックと悔しさ。身近な身内の分だけ超絶響いた。

ゼッタイ超えてやる。同じ道じゃ、かないっこないから、全然違う道を歩んで、そっちの方で超えて、馬鹿じゃなかったことを証明して見せてやる。

そう思った。兎に角どんな方法でもいいから一矢報いて、ギャフンと言わせたかった」

「今迄知らなかったけどオヤジって結構リベンジの人なのね。「人に歴史あり。思いがけぬ側面あり」っていうキャプションね。

それで「ない中身」の重みづけと爺ちゃんフィールドとは絶対にバッティングしそうにない方面進撃を兼ねて、あろう事か世間様から見たら飛んでもハッピーな方面に食指を動かして来た「今でこそ明かす感動の秘話」だったのかあ」

「序だから「今でこそ明かす秘話」をクッチャベルと、うつ病からの帰還が長引いた真の原因は「親父越え」のリベンジが果たせないのに、まだそれを納得せずに「何とか別の方法は無いものか？」とあがいたからだったのよ。

オヤジと全く別のフィールドを歩くと言いながら図らずもエクセレントカンパニーに入り、あまつさえ出世してしまったもんだから、気付かぬうちに親父と同じ線上の道を歩き始めていた。追いつき追い越せるかと思いきや、はるか後方に弾き返された。親父どころか人並にすらなれない現実を思い知らされた。

それで、今度は虫よくも、当初祈願の全く別のフィールドでの親父越えを探し始めた訳よ。

でも、そんなのありっこないし、そんな付け焼刃な事で打ち返し出来る筈もない。

その悶々が堂々巡りを繰り返させ、轍がどんどん深まってもがけば、もがくほど深みに嵌ってうつ病の回復がどんどん遅れていった。

土俵を変えようと言いながら何時しか同じ土俵の上に載ってしまい、殺生与奪の権が自分の側になくなっていったんだ。親父と同じ線上でも、其れから土俵を外そうとした、飛んでもハッピーな道でも、元が親父への対抗心なら、同じく自分由来のものではなかったんだ。見掛けこそ違おうが、元は一緒でしかなかったんだ。いずれ自分の主が自分ではなくなっていたんだから、ちょっとしたことでガタガタ、オタオタして落ちかず、苦しかった筈だワ」

「で、どうしたの？どうしてそこから抜け出したの？」

「何故かは分からないが、ある日突然すべてを認めたのよ。

というか、どうでもよくなって開き直ったというか。

なあんだ、みんなの言う通り俺はバカで凡人だったんだ。其れだけのことだったんだ。背伸びなんかしなきゃよかっただけジャン。ハイ、バカでえ〜ス。一介の市井人、凡人でえ〜ス、と素直に認めたらすっかり憑き物が落ちて、もんのすごく気が楽になった」

「ふうん」

「もう無駄な事に時間を使うのはよそう。

あれだけの時間があればもっと他の事が色々出来たはずなのに、勿体ない。是からはそんな事に使っていた無駄な時間をもっと他に振り向けよう。

そうだ、自分の好きな事をしよう、是からは、って言う処かな」

「父と息子って、結局は敵同士みたいなもんなんだね。

元々、俺にもそう言う処あるし」

(著者プロフィール) Writer`s profile.

うときゅう いっき(writer`s name utokyu ikki or Khazu san)

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

1953 年東京生まれ( was born in 1953 in Japan.)

早稲田大学第 1 文学部露文学科を 2 回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に 20 年間勤務。同子会社経理部等に 16 年間勤務。

40 歳から五 52 歳まで 12 年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社 うと Q を設立 (After retirement from Toshiba, established, “utokyu corporation” in 2014)

現在主業はネパールカレー屋。(Now main business Nepali curry restaurant, “Namaste everybody” owner)

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つの k。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

〒215-0018

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 5 丁目 3 4 番 7 号

電話 (phone)：044 - 989 - 1698

発 売 株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

編 輯 しばらくの期間「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン&DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in Japan from 2020

発行日：2023年8月5日 初版発行 (5<sup>th</sup> August 23 released.)

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。All cory rights reserved.

(その他著書)

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。